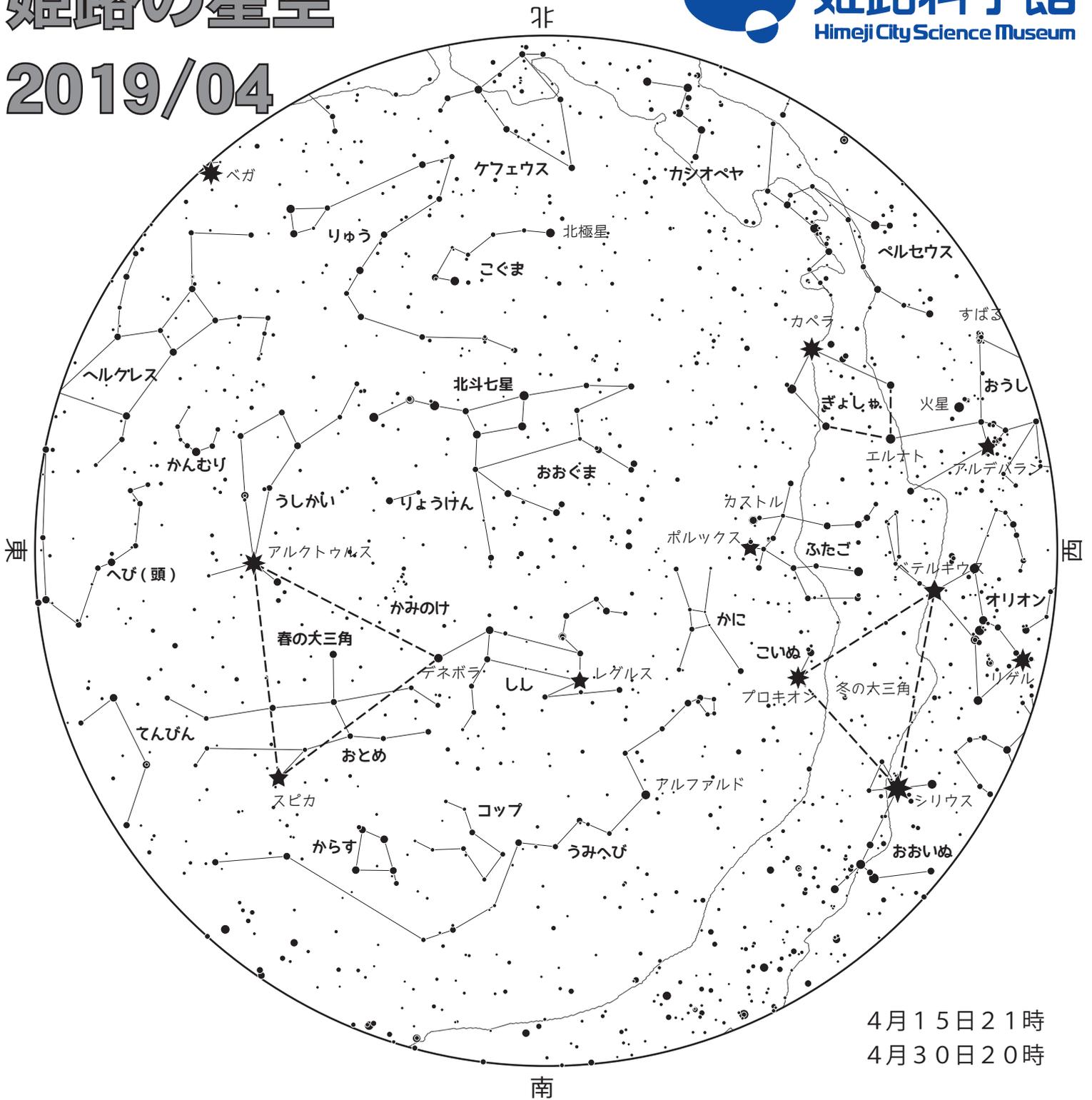


姫路の星空

2019/04



姫路科学館
Himeji City Science Museum



4月15日 21時
4月30日 20時

冬の星たちが西に傾き、頭の上には春の星空が広がります。南の空高くにはしし座が見えます。胸に輝く1等星レグルス（小さな王様）から頭にかけての星たちが？を裏返したように見えます。デネボラはしっぽという意味の名前です。北の空高くには北斗七星が見えます。斗は水をすくう「ひしゃく」のことです。ひしゃくの器の先の星から順にほ・く・と・し・ち・せ・いとたどると、星の数と時の数が一緒です。指差し確認してみましよう。くの星からほの星に線を引き、そのまま伸ばすと北極星が見つかります。北斗七星は**おおぐま座**の一部です。腰からしっぽにかけての星たちですが、本当のクマには長いしっぽはありません。北斗七星のしちせいのカーブを伸ばすと、クマの番人と名付けられている**うしかい座**のアルクトゥルスが見つかります。さらにカーブを伸ばすと**おとめ座**のスピカです。カーブをさらに伸ばすと見える船の帆のような形は**からす座**です。

西の空の冬の星たちはそろそろ見納めですが、1等星が多くてにぎやかです。冬の大三角を作る**おおいて座**のシリウス、**こいぬ座**のプロキオン、**オリオン座**のベテルギウスが目立ちます。このほかに、**ぎょしゃ座**のカペラ、**ふたご座**のカストル、**ポルックス**なども探してみましよう。**おうし座**のアルデバランは見つけにくくなりました。おうし座には火星も見えています。